●ご不明な点は販売店、または弊社までお問い合わせください。
●この取扱説明書は仕様改良のため予告なく変更することがあります。

株式会社ヘリテイジ　〒399-8302　長野県安曇野市穂高北穂高2827-18
☎ 0263(82)0141　WEB SITE：http://heritage.co.jp

ESPACE MAXIM NANO

エスパース・マキシム ナノ

取扱説明書

ご使用の前に必ずお読みください

ESPACE®

各部名称と説明

A 吹き流し式入口
入口をトンネル状にした冬季重視の入口です(オールシーズン対応)。開閉にファスナーを使用しないため凍結の恐れがなく、出入りの際には内部への雪の侵入を防ぎます。また絞り口は2段式のため、風によるバタつきを防ぎ、開閉もスムーズです。

B 張り綱
テントを固定し、耐風性、居住性を高める重要なパーツです。ポールの延長線上でコーナーより約70cmの位置にペグなどで固定してください。

C プラスチック3つ穴自在
テントをしっかり固定する際、張り綱を強く張るためのものです。また撤去の際は、自在を調節すれば簡単にゆるみます。

D ポール受け
温度、湿度によりテント本体は伸縮するため、2つのグロメットでテントの張りを調整します。

E グランドシート
パネル面までグランドシートが立ち上がり(バスタブ式)、雨水の跳ね上がりがテントパネルに付着するのを防ぎます。防水地(耐水圧2,000㎜/cm^2以上)を使用していますが、地面に接しさらに人の体重が加わるために水がしみることがあります。防水、保温のためにテントマットを必ず使用してください。

F コネクテッド・ポールスリーブ
ポールスリーブは頂点部が連結されていますから、一気にポールを通せて設営がよりスピーディーにできます。

G テントパネル
テント室内のムレ(結露)を防ぎ換気を図るため、通気性に優れた生地を使用しています。ナノ加工で強い撥水性はありますが防水性はありませんので、降雨時には必ずフライシートを併用してください。

H ベンチレーター
テントパネル上部に設置(前・後面2カ所)されていて、テント室内の換気を図るためのものです。テントパネルは結露や氷結などで通気性が悪くなるため、定期的に換気してください。

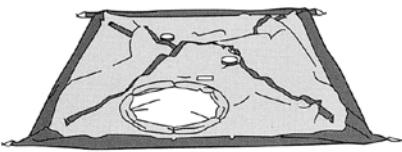
I ペグループ
このループにペグを通し、地面に打ち込んでフライシートを均一に張りながら固定します。

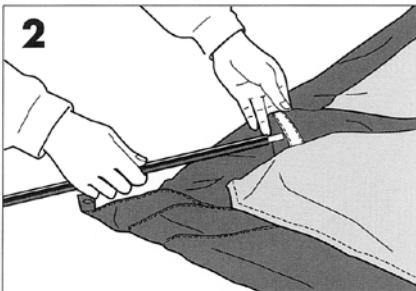
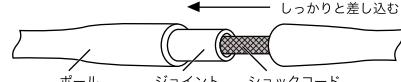
J テントポール
テントの生命部分ともいえるパーツです。メンテナンスをしっかり行い、山行に合わせて予備パーツなどを携行してください。

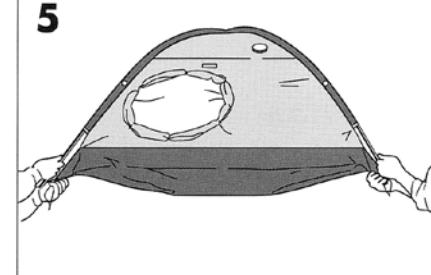
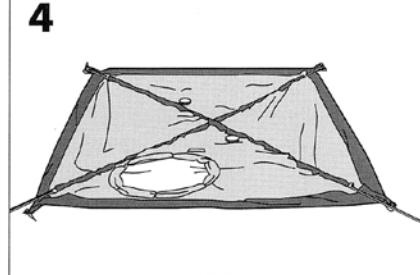
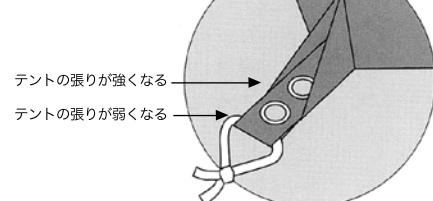
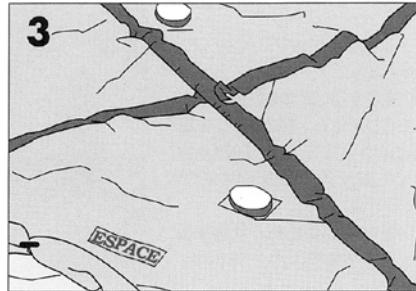
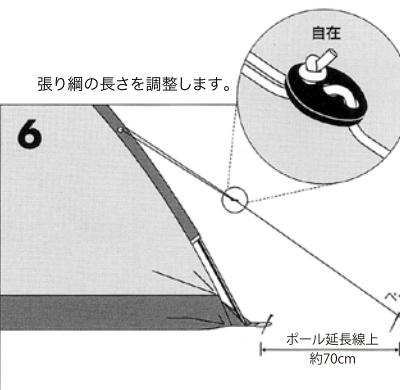
K 入口留め具
入口の吹き流しを束ね、開放する時に使用します。テント室内にある留め具は冬季用内張りをセットするものですから、重いものはぶら下げないでください。

L ペグ
地面にショックコード、張り綱などを固定するアルミ合金製の杭です。

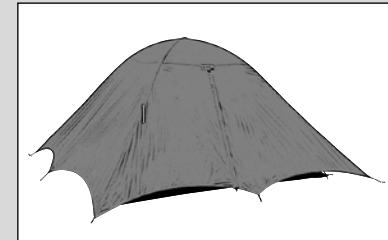
M フライシート(オプション)
雨や夜露などを防ぐ防水アウターシートです。防水地(耐水圧2,000㎜/cm^2以上)で本体を守ります。通気性はありません。　設営がスピーディーなマキシムフライと、跳ね上がるような雨にも有効なスーパーフライがあります。

設営方法

テント本体を広げます。入口は風がない時には半分程度開けた状態で、風がある時にはテント室内に風が吹き込まない程度にほんの少しだけ開けます。
基本としては入口を風下側に向けます。強風時にはペグでコーナー部分を仮り止めなどして、飛ばされないように十分注意してください。

ポールを通し終わったら、それぞれ一方の端を本体コーナーのポール受けに差し込みます。

ポールを組み合わせ、ポールスリーブに通します。この際、ポールの各接合部(ジョイント)を完全に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、折損の原因となります。

ポールを組み合わせる時には、各接合部(ジョイント)を完全に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、折損の原因となります。

5

反対側のポール受けの付け根を持ち、2人で両方から同時にポールを押し込みます。湾曲させながらテント本体を起こし、ポール受けに固定します。一人で設営する場合は、まず交差している上側のポールを寝かせたまま湾曲させて固定し、次に下側のポールでテント本体を立ち起こします。6-7人用サイズの場合は一人での設営はポールに過度の力が加わりますので避けてください。また設営者は可能な限り風上側に立って行なってください。
温度、湿度によりテント本体の伸縮があります。ポール受けに2つあるグロメットで張りの強さを調整します。通常は内側に、きつい場合には外側のグロメットにセットします。

頂点ではポールが交差しますが、もし引っかかった場合は無理に差し込まないで、ポールスリーブ通りに交差させてください。(この際、交差する下側のポールスリーブからポールを通し始めるとスムーズです。

ポールをセット後、テントの各隅をすべてペグで固定します。次にすべての張り綱をそれぞれ対角線上に、ポールの先端から約70cmの位置にしっかりとペグで固定します。
あまり離れた位置に固定しますと、フライシート(スーパーフライ)を張る際に邪魔になります。

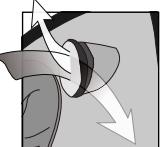
撤収時の注意点
ポールをテントから抜き取る際、ポールは反対側に押し出すようにしてスリーブから抜き取ってください。手前に引き出そうとすると、スリーブ内でポールのジョイントが外れ、スムーズに抜き取れなくなります。また、強風時には張り綱を数本残しておくとテントがとばされにくくなります。

専用オプション

スーパーフライ(オプション)**の張り方**
フライシートは、入口面をテント本体の入口面と合わせて覆い被せます。ESPACEマークが付いている面が入口面ですので目印にしてください。次にフライシート頂点内側の紐を、テント本体の頂点ポール交差部に結びます。それを中心に裾のショックコードを放射状に張り出し、ペグで固定していきます。本体とフライシートが接触しますと漏水の原因となりますので、たるみのないように均一に固定してください。ペグが使用できず付属のロープで岩や石などに固定する場合は、岩角でロープが切れやすくなりますので注意してください。また、フライシートの裾には直接石などを載せないでください。

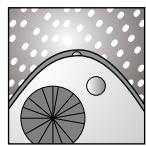
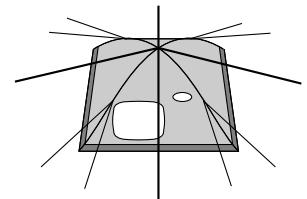
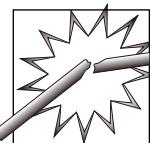
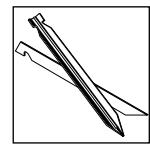
エスパース・マキシム専用のマキシムフライ(オプション)**は製品に添付の説明書をご覧ください。**

スーパー内張り(オプション)**の取り付け方**
内張りはテント内部に装着します。表裏がありますので、きれいな縫い目の面を居住空間側にしてください。表裏を逆にすると、ベンチレーターの位置が合わなくなります。
まずテント内側頂点の留め具を内張り頂点のグロメットに差し込んで吊るします。入口とベンチレーターの位置を確認し、残りの留め具を上から順に内張りのボタンホールに通して吊るしていきます。この際下側のボタンホールは複数空いていますので、張りが均等になるようにホールを選んでください。一列吊るし終えたらパネル中間を吊るして次の列を吊るしてください。後からですとパネル中間部が吊るせないことがあります。

注意事項 ⚠

火気厳禁
テント室内でのコンロ、ランタン等の火器は絶対に使用しないでください。テント室内は限られた空間のため火器を使用すると、火災発生の恐れや一酸化炭素中毒の恐れもあり非常に危険です。やむを得ず使用する場合は、必ず入口、ベンチレーターを開けて常に換気してください。またテントの生地は可燃性素材ですから、火器はテントパネルから十分に遠ざけ火災に注意してください。

換気必要
テントパネルは室内のムレを防ぎ、換気を図るために通気性を優先させています。しかし、フライシートを使用した時やテントパネル面が氷結した時などは、通気性が悪くなる時があります。テント室内ではベンチレーターや入口を開けるなどして、常に換気をしてください。

張り綱の取り扱い
このテントに付属している張り綱は外皮にポリエステル、中芯にダイニーマを使用しているため、軽量で強度(約100kgf)も保持しています。しかし、従来の張り綱より径が細いので、自在を急激にスライドさせますと手を火傷したり自在を破損させる原因となります。張り綱を張る際は岩角などに触れないように張ってください。摩耗により切断しますので十分注意してください。ペグなどを打てなくて岩石を利用する際は、直接張り綱を岩石に結ばずに別のロープ等を利用してください。

フライシートと内張り
エスパース・マキシムにはフライシートと内張りがオプションとして用意されています。季節に応じてどちらかを使用、または併用します。
フライシートは, 基本的に降雨の可能性のある季節や地域で使用する、防水を目的としたアウターシートです。防水加工を施していますから通気性はありません。春山など気象条件により積雪地でフライシートをご使用になる際には積雪により下部開口部は密閉され換気ができなくなることがあります。除雪を十分に行なってください。また、雪のブロックなどで開口部を絶対にふさがないでください。酸欠の恐れがあり危険です。
内張りは、低温下で降雪が予想される季節や地域で、保温効果を高めるために使用するインナーシートです。内張りには結露による氷結を防ぐため通気性を持たせてありますので、防水効果はありません。

悪天候・強風時には
悪天候が予想される時には早急に下山する事が安全登山の鉄則ですが、万が一悪天候にみまわれた時には、各張り綱がしっかりと固定されているかを再点検してください。
烈風時には補助ロープを利用して、テント頂点のポール交差部からテントパネル側に張り綱を追加し固定してください。また、張り綱を一カ所からV字形に2本張ると効果的です。

破損時には(スペアポール、リペアパイプ、応急処置品の携行)
テントポールは悪天候や不測の事態などで折れることがあります。折損の際はショックコードを切断し、破損したポールをスペアポールに交換し応急処置してください。
生地が破れた時には、ガムテープなどで両面から張り合わせて応急処置をしてください。山行日程に合わせて、複数のスペアポール、リペアパイプ、予備の張り綱などを携行してください。

購入後の付属品の確認
テントやパーツの製造、販売には十分注意していますが、ご購入後は必ず山行前に試し張りをしてください。その際、付属品の数、ポールサイズ、設営具合などをご確認ください。また、テントの設営は繰り返し練習の上、実際の山行に備えてください。

サイズ	ペグ	張り綱	スペアポール
1～2人用	10本	4本	1本
2～3人用	12本	4本	1本
4～5人用	12本	4本	1本
6～7人用	24本	12本	リペアパイプ 1本

防水コーティングの劣化(加水分解)
グランドシートやフライシートの防水コーティングに使用しているポリウレタン樹脂は、ご使用にならなくても、徐々にポリウレタン樹脂が劣化してボロボロになったりベタ付きが発生します。これは、ポリウレタン樹脂が空気中の水分、気温(熱)等の影響で次第に劣化していく化学反応(加水分解)によるものです。
加水分解は、一般的に5～7年をめやすとして進行し、復元させることは不可能です。
使用、保管方法によっては劣化が早まりますので、ご使用後にはメンテナンスを行ない、直射日光を避け、高温、多湿にならない場所で保管し、時々広げて乾燥してください。

ESPACE

NO.

製造ナンバー
アフターサービスのため、製造ナンバー(テントバッグとテント室内に表示)により、ポールサイズ、パーツ類を管理しています。修理のご依頼、予備ポールやパーツのご購入の際は、必ず製造ナンバーを販売店にお知らせください。

ご使用後のメンテナンス
- ご使用後は泥や汚れ等をよく落とし、風通しのよい日陰で十分に乾燥させてから保管してください。汚れのひどい場合は、スポンジ等で水による手洗いをしてください。
- グランドシートを乾かすために、ポールをセットした状態でテントを逆さまにすることは避けてください。ポールスリーブが地面と擦れることで劣化を早め、ポール折損の原因ともなります。
- 汚れたり濡れたまま保管すると、生地の劣化を早めるばかりか、カビや色落ちの原因となりますので十分注意してください。また定期的にフッ素系の撥水スプレーを塗布すると生地表面の撥水性が持続します。
- ファスナーの泥汚れはファスナー破損の原因となりますので、常にきれいにしてください。定期的にYKKファスナーメイト(シリコンスプレー等)を塗布すると、スライダーの動きがスムーズになります。
- テントポールもよく汚れを落とし、乾燥させます。ジョイント部には潤滑剤を薄く塗布してください。濡れたまま保管しますと、腐食し強度低下につながります。
- 生地の破れ、ファスナーの故障、ポールの折損などの修理は弊社にて承ります。その際、製造ナンバーを販売店または弊社にお知らせください。
- 次の山行に備え事前に異常や故障を発見するため、メンテナンスの際、テントポール、ファスナー部、張り綱などよく点検してください。